

ほ ほ え み

02 02 10

<第80回 ほほえみの会>

天野先生、高島先生をはじめ7人が参加しました。

治療後の方ばかりで予後の生活のことが話題となりました。

- ▽ こどもが病気になったことでこども病院近くにアパートを借りて一家で移り住んだが移植から4年が経つので再び引っ越しをする。学校では体育の授業も受けるまでにはなっているが、体力的にはまだまわりの子に劣っている。新しい学校に行って馴染めるか不安。また引っ越し先ががんセンター近くなので今後はそちらで診てもらいたい。
- ▽ インフルエンザが学校で流行っているが治療中では予防接種も受けられない。休ませた方がいいだろうか。学級閉鎖になるくらいインフルエンザが広がっているなら休んだ方がいいがそうでないなら休むことはない。休みだしたらきりがない。たとえ罹っても今は良い薬がある。家族はワクチンを打っておいて予防できることはしておいた方がいい。
- ▽ こどもの治療に目途がついたら母親も医療や福祉、介護などの活動が出来ないかと考えるという話題も出ました。
最近では大学でも社会人入試があって受け入れている。
例えば日本ではまだ馴染みが薄い音楽療養士もアメリカなどでは活躍している。辛い治療の時に音楽があってもいいのではという考えから手術の前日に本人に好きな曲を聞いておき、手術室に入ったときにその曲が流れている。不安でいっぱいなのにリラッ

クスできる。また退院後も家をまわって一緒に歌を歌うことなどもやる。

そんな事もしたいが勉強をするとなるとかなり大変な模様。

- ▽ 9月にオープンする県立がんセンターに天野先生が4月から赴任します。がんセンターの小児科は医師が2人で6歳以上のこどもを診ます。東部の方で検診だけの方はこれからがんセンターで診察が受けられます。また入院も出来ます。さらに検査機器も最新のものが入り今後こども病院との連携が期待されています。そうしたハードに加え、天野先生がいてくだされば心強い限りです。
- ▽ 患者本人の会「peer」は会員が20人ほどです。会報の発行をしています。

| 次回は 3月10日(日) 11時からです |

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail klikeda@nifty.com

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~hohoemi/>